

このコーナーでは、
農業のちょっとしたコツを、
市の営農指導員から
お知らせします。

営農指導員の ワンポイントアドバイス

営農指導員 若山 謙
わかやま ゆずる

夏野菜の出来は 梅雨時期で決まる！

一年の中で最も野菜作りでつまずきやすい時期、それは梅雨です。4月、5月に意気揚々と種まき、定植を行ったものの、梅雨対策ができていないために、その後は手間ばかり掛かって収穫は少ない、品質が悪いという残念な結果になってしまふことがよくあります。対策をしていない人もまだ間に合いますので、ぜひ梅雨対策の参考にしてください。

梅雨により 発生しやすい問題とは？

▼野菜が病気になるやすくなる

致命的な問題として最も表れやすいのが野菜の病気です。土の中や野菜の表面の環境が高温多湿になると、病気の原因となる細菌やカビの菌が増えやすくなります。特にトマトやカボチャ、スイカなど、もともと雨量の少ない地域を原産地とするような野菜は、病気にかなりやすくなります。

▼雑草の勢いが増す

雨量が増えるとともに、気温も

高くなるため、雑草が成長しやすくなります。また、日本で長年生きている雑草は、野菜より高温多湿な環境に慣れているため、野菜に比べて、より成長しやすい時期です。

▼土（土壌養分）の流出が起こる

畑では、大量の雨が降ると、土が雨に溶けて流出し、水に溶けやすい土壌養分も同時に流れていきます。特に石灰や苦土、カリウムなどは水に溶けやすく、流出しやすい養分です。

梅雨対策 これだけはやっておこう！

対策① ビニール資材などで土の表面を覆う（マルチング）。

対策② 野菜に雨が当たらないように、ビニールなどで上部を覆う。

特にトマトへの使用がおすすめ。

対策③ 降雨で停滞した水が速やかに農地外に排出されるように、溝などを作る（畝を高くする）。

対策④ 雨の日に野菜に触れると野菜に傷ができ、そこから病原性の細菌が入りこむことがあるため、雨の日には野菜を触らない、畑の中を歩かないようにする。

問い合わせ

農業振興課農業振興係

☎0824・73・1131

庄原が好き

このコーナーでは、人と人とのつながりや暮らしのストーリーを、シリーズで紹介します。まちを知り、地元の新たな魅力を発見すること、人を、まちを、もっと好きになりますように。



大自然の中で活躍している
福田 実沙季さん

前回は真鍋さんから、「好きなことを仕事にする」ことについて話を聞きました。今回は、真鍋さんの知り合いで、好きなことを仕事にし、活躍している福田実沙季さんに話を聞きます。

自然が大好き

学生時代に「ひろしま県民の森」を利用したことがきっかけで、自然の素晴らしさのとりこになり、広島市から思い切って庄原市へ移住し、「ひろしま県民の森」へ転職しました。

「ひろしま県民の森」をすてきな思い出になる場所、居心地のいい場所にしたいと、日々業務に取り組んでいます。

また、もっと多くの人に庄原市や県北全体の魅力を知ってもらいたい、訪れてもらいたい、住んでももらいたいと、

勝手に観光大使のような気持ちです！

人とのつながり

大学の先輩に、真鍋さんが経営する「庄原バル」に連れて行ってもらったのが真鍋さんとの出会いです。真鍋さんにはたくさんのお出合いの場を作ってもらいました。そこで出会った人とのつながりから、おいしいものやお店、すてきな場所など庄原の魅力をたくさん教えてもらいました。

庄原市には、すてきでいい人が多いと思います。そういった人の良さや人とのつながりが、他の良いことにもつながっていくんだなと実感しています。



SNSの投稿募集中
「#庄原が好き」
で投稿！



▲投稿を
チェック

問い合わせ

自治定住課定住推進係

☎0824・73・1257